

令和 8 年度 相模原市 英語教育改善プラン

目標

新しい時代に活躍できる力の育成
互いの考えを伝え合い、理解し合える英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教師含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①本市独自の学力調査の質問紙調査より、約 8 割の児童が、身近な話題について、英語を使って、自分の気持ちや考えを簡単な語句や文で伝え合うことができていると思っており、高水準を保っている。

(R6: 81.1% R7: 80.9%)

②研修等で提出された学習指導案の内容や、研究発表等での授業実践などから、言語活動を通した指導の質の向上が見られる。

未だ改善が必要な点

①約 2 割の児童が、身近な話題について、英語を使って、自分の気持ちや考えを簡単な語句や文で伝え合うことができていない。

②言語活動は実施されているものの、児童の「英語で伝えたい」という気持ちを喚起するための教師によるモデル提示や、コミュニケーションの目的や場面、状況等の設定においては、改善の余地があると考えられる。

2. 要因分析

研修の内容を充実させるとともに、研究会等において、市内教師等の授業に関する好事例を発信したことで、言語活動を通した指導が一層充実したと思われる。そのことが児童の英語力の向上にもつながっていると考えられる。

また、研修や小中連携の場において、小中の教師同士が情報交換や協議をする機会を設けたことも、好影響を与えていると思われる。

研究・研修等を通して教師の指導力は向上しているものの、児童の実態に合わせた指導の工夫や、具体的な目的や場面、状況等の設定等に関して、理解の一層の深化に向けた取組が十分ではないことが要因として考えられる。また、ALTとの実際のコミュニケーションを充実させるための考え方や手立てについても、より深い理解を促進することが必要な状況が見られる。さらに採用段階で英語力の高い教師をより多く確保することも求められる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①言語活動のさらなる充実

研究・研修の機会を通して、言語活動のさらなる充実及びALTを活用した指導の質の向上を図る。研修では引き続き「研修観の転換」を意識し、教師が主体的に学び、課題を解決することを通して、児童の実態に即した授業ができるような授業力を身に付けることができるようにする。また、ALTの活用に関するオンデマンド動画等も作成・活用し、好事例を積極的に発信しながら実際のコミュニケーション活動の充実を図る。これらのことにより、児童の英語によるコミュニケーション能力向上につなげる。

②小中連携のためのCan-Doリストのさらなる活用

本市が推進する「小中一貫の日」等で、引き続き中学校との連携を深めていく。また、研修においても中学校区での協議を重ね、児童生徒の実態に鑑みたCan-Doリストを共有し、小中一貫した英語教育の推進を図る。さらに、児童生徒が分かりやすいと思える指導方法についても情報共有するように助言する。

参考URL：さがみはらスタンダードCan-Doリスト

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20230707145941.pdf

③一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組の継続

- ・1次試験における加点：小学校教諭の区分で受験し、一定の英語力、資格等を有するものに1次試験で加点し、受験者の確保に努める。
- ・併願制度を実施：大学推薦者は併願制度を利用することができる。第1希望中学英語、第2希望小学校が可能となる。加点制度に併願制度を追加することで選択肢を広げ、受験者確保に努める。

令和 8 年度 相模原市 英語教育改善プラン

目標

新しい時代に活躍できる力の育成

互いの考えを伝え合い、理解し合える英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

中学校 3 年次に CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合の目標値

R7 : 50.4% (実績値) R8 : 55.0% R9 : 56.3% (第 2 次相模原市教育振興計画の成果指標に基づく)

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☒ ALT の参画 ☒ ICT の活用 ☐ AI の活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AI を除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語教育実施状況調査の結果より、CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が 50% 以上を保持している。

(R6 50.3% R7 50.4 %)

②研修等で提出された学習指導案の内容や、研究発表等での授業実践などから、言語活動を通した指導の質の向上が見られる。

①本市のこれまでの施策について、外部試験等エビデンスによる、より信頼性の高い成果検証を行うことにより、その内容に基づいた授業改善を推進していく必要がある。

②ALT が授業に参画する際に、ALT と生徒の間で、実際のコミュニケーションの機会を増やす必要がある。

③デジタル教科書等 ICT 活用について、効果を十分に発信できているとは言えない。

2. 要因分析

令和 5 年度全国学力・学習状況調査で明らかになった課題を受け、その内容を踏まえた研修プログラムを実施するとともに、研究会等で、言語活動を通した指導に関する好事例を発信し続けた。このことで、教員の指導力が一層向上し、学習評価の妥当性、信頼性も高まったと思われる。さらに、生徒の英語力の向上にもつながっていると考えられる。

教員による言語活動を通した指導力の向上が見られる一方で、エビデンスに基づいた信頼性の高い成果検証が十分にできているとは言えない。また、ICT の活用や ALT の参画による良さを生かした授業実践の好事例が、十分に共有できているとは言えない。信頼性の高い成果検証を行うとともに、ICT 活用や ALT 参画に関する好事例を積極的に発信し、生徒の英語力のさらなる向上につなげる必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①より信頼性の高いエビデンスに基づく効果検証 全国学力・学習状況調査の結果分析に加え、生徒の英語力を経年で見取ることができるようにするために外部試験を段階的に導入する。その結果を分析・活用し、教員による指導のさらなる改善を促進する。また、生徒が自分自身の英語力を客観的に把握し、学習の改善につなげられるようにする。これらのことで、生徒のさらなる英語力の向上につなげる。

②言語活動のさらなる充実 研究・研修の機会を通して、ICT の活用を含めた言語活動の充実、及び ALT を活用した指導の質の向上を図る。研修では引き続き「研修観の転換」を意識し、教師が主体的に学び、課題を解決することを通して授業力を高めることができるようにする。また、ALT の活用に関するオンデマンド動画等も作成・活用し、好事例を積極的に発信しながら実際のコミュニケーション活動の充実を図る。これらのことにより、生徒の英語によるコミュニケーション能力向上につなげる。

③小中連携の推進と Can-Do リストのさらなる活用 本市が推進する「小中一貫の日」等を活用し、英語教育においても小学校との連携を深めていく。また、本市の研究推進事業において小学校 1 校が外国語の授業に関する研究推進校であり、令和 8 年度は研究発表を行う予定である。中学校の教師も本校の取組から学ぶことができるような体制を確立する。さらに、研修においても小中の教師が同じ中学校区での協議を重ね、児童生徒の実態に鑑みた Can-Do リストを共有し、小中一貫した英語教育の推進を図る。参考 URL :

https://kyouikucenter.sagamihara.andteacher.jp/modules/ict_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20230707145941.pdf

未だ改善が必要な点

目標達成状況一覧表

令和8年度様式（様式2）

相模原市教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		51.3	50.1	52.5	50.3	53.8	50.4	55.0		56.3	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		84	75.0	84		86		88		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		100	91.7	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	75.0	85		90		95		100	
		達成状況の把握(%)	100	83.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		46	48.6	48	48.2	50	71.5	52		54	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		82	64.8	84		86		88		90	
校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	90.1	100		100		100		100	
		公表(%)	52	56.3	64		76		88		100	
		達成状況の把握(%)	100	71.8	100		100		100		100	